

表彰

宮澤三雄先生を日本油化学会名誉会員に推戴のこと

宮澤三雄氏

(奈良先端科学技術大学院大学客員教授・近畿大学名誉教授)



この度、名誉会員に推戴された宮澤三雄先生のご業績と本会での活躍、そして長年にわたる業務委員会等を通じた本会へのご貢献をご紹介します。

宮澤三雄先生は、1977年に近畿大学大学院工学研究科応用化学専攻博士課程を修了され、キク科生薬植物の新規ポリアセチレンの化学構造解析、新規生体分子の合成等に関わる研究で工学博士の学位を取得されました。その後、同大学非常勤講師を経て理工学部助手に着任され、平尾子之吉教授、亀岡弘教授とともに有機化学、天然物化学、香料化学に関する研究を精力的に進められました。1985年には、米国ミシガン州立大学農薬研究所博士研究員として神経生化学、昆虫生理学研究に従事され、1998年に近畿大学理工学部教授・大学院総合理工学研究科教授に就任されました。2016年に近畿大学をご退職後、同大学名誉教授、奈良先端科学技術大学院大学客員教授に就任され、現在もご活躍されています。宮澤先生のお生まれは、福井県の豪雪地帯です。雪の深い冬は山スキー、雪道ツーリングを楽しまれ、夏と秋は自然豊かな山林田園を駆け巡り、日の暮れることも忘れて自然界と戯れる幼少期を過ごされました。また、中学・高校時代は、世界一の眼鏡生産地へと発展した工学系産業の現場を間近に見て過ごされました。これらの経験が、先生の自然科学と工学への飽くなき好奇心を芽生えさせる原動力になったと思われます。

先生の研究哲学は、「大自然の中で発展してきた生物を構成している生体分子に無駄なものは一つもない」という一貫したお考えです。特に、植物の中の希少分子の一つ一つには、人類の健康維持にとっても重要な役割物質が隠されており、現代化学でその詳細を解き明かし、生物多様性と地球環境サイクルの流れに適合する必然的利用法を化学の力で導くことが重要である、と考えられています。

このようなお考えに基づき、特に、植物が産出する精

油に着目されて、精油構成分子が発現するヒト健康長寿メカニズム解析、新規精油植物の開発など「精油構成分子の生体内動態およびその機能性に関する研究」を精力的に展開されて顕著な業績をあげられました。これらの業績に対し、2010年に日本油化学会賞を受賞されています。宮澤先生と日本油化学会との関わりは、大学院生時代の研究発表と会誌への論文掲載からスタートされました。その後、関西支部幹事、常任幹事、常任幹事長を歴任され、本会理事、運営委員会副会長を経て2013年に、第30代会長に就任されました。その間、食品健康科学部会長、会員増強委員長として、部会の創設と活動の活性化に貢献されています。また、フレッシュマンセミナーの設立と関西支部での運用の開始にご努力され、JOS編集委員長、部門編集長の時には、学術論文誌 (*Journal of Oleo Science*) の発刊、発刊後のJOS誌知名度向上 (IF値取得) に貢献されました。特に、現在のJOS誌表紙デザイン、ロゴマーク、配色、Cited in、関連分野構成等は宮澤先生のアイデアによるものであり、国会図書館での洋 *Journal 100* 選に国内発刊学術誌として唯一JOS誌が選定され開架されたことも私たちの記憶に新しいところです (オレオサイエンス Vol.12, No.9 (2012))。

また、宮澤先生は教科書の執筆、書籍の編著活動にも精力的に取り組み、「身近に学ぶ化学の世界」、「資源天然物化学」、「ドラッグストア Q&A」、「コスメティックサイエンス」、「テルペン利用の新展開」、「アロマのある空間」は、学生から専門家まで幅広い読者に活用されています。

以上ご紹介した宮澤先生のご業績、ご活躍、そして長年にわたるご貢献により、当学会が大きな力を得たことはご存じのとおりです。これまでの宮澤先生のご尽力に深く感謝し、今後ともご健康でご活躍されることを祈念申し上げます。